

る。次に、「あの雲のように」において、旋律の特徴を生かしてどのように表現するかについて自分の考えや意図を持つ学習を展開する。まず、旋律の範唱を聴きながら、旋律の音の上がり下がり線を線で表し、旋律の動きと曲の感じとの関わりについて関心を持たせる。この過程において、旋律の動きのなめらかさや、同じ高さの音のつながりに気付かせ、それらがどのような曲想をもたらしているかについて考えさせたい。次に前時でつかんだ旋律の特徴からどのように歌うかについて思いや意図をもち、グループで協働して表現したいイメージを固めながら、旋律の特徴に合った歌い方を工夫していく。まとめとしてグループで表現を練り上げる際には、グループ同士でアドバイスしあう活動を取り入れたり、仕上げた表現を発表する際には、聴き手に良かったところを挙げてもらい、感想を述べさせたりする活動をする。ここで演奏者と聴き手との意見交流をすることによって、思いや意図をもって表現を工夫することのよさや大切さに気付かせたい。

この後児童は、小4における同名題材「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」において、旋律の特徴を聴き取り、曲想にふさわしい表現を工夫して歌ったり演奏したりする。ここでの学びで経験した、旋律の音の動きを線で表して視覚的に捉えた活動を想起させ、旋律の動きに合わせた強弱の工夫や、表現したいイメージに合った音色を工夫したりする活動につなげたい。

これまでの授業では、導入の際の活動として「手拍子回し」やリコーダーを使った「ソ・ラ・シの3音リレー」を取り入れ、一人一人が一つの音を選び、それをつなげる活動を取り入れてきた。リレーが一回りつながった時、児童は全員が参加できた喜びと一体感を味わっている。本時において、一人一人が旋律の特徴を感じ取ってそれを視覚化し（自己決定）、旋律の特徴を生かしてどのように表現したいかについて、言葉で伝え合う活動と実際に音で試して確かめる活動とを往還させながら、一人一人の児童が学ぶ楽しさや成就感を味わうことにつなげたい（自己存在感）。また、友達の演奏を聴くときは、常にそのよいところを見つけて伝えるよう、助言してきた。グループで練り上げた表現の発表を聴く際、演奏を傾聴する態度を促す。聴いている児童が演奏のよさや面白さを認め、それを全員で演奏して試すことで共有し、共感的かつ暖かい雰囲気の中で演奏表現がのびのびとできるような環境を整えていく（共感的人間関係）。

(2) 題材観および教材観

①題材観

本題材では、旋律やフレーズを手掛かりにその特徴を捉え、それらが生み出す曲想の変化を感じ取って聴いたり、曲想にふさわしい表現を工夫したりする活動を通して、思いや意図を持って表現するための能力を伸ばしていくことに重点を置いて学習を進める。旋律の音の上がり下がりに着目して旋律の特徴を感じ取り、それぞれの旋律のよさや面白さを探しながら曲想を感じ取って聴いたり、演奏したりするなど、児童の旋律の特徴を感受する力やそれが生み出す曲想にふさわしい表現を工夫する力を養うのに適した題材である。

低学年時において児童は、自分の歌声の発声や発音に気を付けて友達と声を合わせて歌ったり、楽器の音や伴奏を聴きながら音を合わせて楽器を演奏したり、音遊びを通して簡単なリズムをつくったりする活動を通して、音楽に対する感性を育ててきたと思われる。中学年ではより具体的に、「旋律」に着目して音の上がり下がりやリズムの特徴を手掛かりに曲想を感じ取り、それにふさわしい表情豊かな表現の仕方を工夫する学習を展開していく。

指導に当たって、旋律の特徴を十分に捉えられるよう、音の上がり下がりに合わせて手を動かす活動や、旋律の音の高さに合わせて線でつないで視覚化した「旋律線」を取り入れていく。まず、「メヌエット」を音の上がり下がりの方に気を付けて鑑賞する活動を通して旋律の特徴を捉え、旋律の特徴によって生み出される曲想の違いや面白さに関心を持たせる。次に、旋律の特徴を捉えて歌唱する「あの雲のように」を提示する際に、前時の鑑賞活動で感受したことを十分に想起させる。このことにより「旋律」に着目して学習を進めることが明確になり、題材を貫く学習のめあてを子供たちの中から引き出すことができると考える。また、旋律の特徴に合った表現を工夫して歌唱する活動では、まず一人一人の児童が旋律の特徴に合う歌い方について思いや意図を持つようにする。次に、グループ活動を取り入れ、それぞれのアイディアを試すことで、どのような歌唱表現にしたいかについて思いや意図をふくらませる。この時、表現を試す活動を繰り返し行い、表現を更新させながら、よいと思う表現の工夫を練り上げさせたい。このような活動から、「音が上がる部分を盛り上げたい」「伸ばす音は滑らかに歌いたい」などの自分の思いや意図を、強弱の付け方や発声の仕方などの表現の工夫につなげて演奏する能力が高まると考える。

題材のまとめとして「ふじ山」の歌唱表現を工夫する活動を設定する。鑑賞で感受した、旋律の特徴と曲想との関わりや、「あの雲のように」においてグループの思いや意図を生かした表現に近付けるために工夫してきたことを想起させながら活動することで、旋律の特徴が生み出す曲想のよさや面白さを味わって聴いたり、曲想にふさわしい演奏の仕方について思いや意図をもって工夫したりする力を育てることにつながると思う。

②教材観

○「メヌエット」 ト長調 ベートーベン 作曲

原曲は1796年にウィーンで出版された「ピアノのための6つのメヌエット 第2部」の第2曲ト長調であるが、古くからバイオリンとピアノのための編曲版が親しまれている。主旋律は一つの楽器（バイオリン）で演奏されるため、旋律の動きに着目しやすい。ア→イ→アの3つの部分からできており、楽曲全体の構成を分かりやすく捉えることができる。なめらかな音の動きを美しく奏でるあの旋律と、軽やかで弾むようなリズムをもつイの旋律を対比させて聴かせることで、旋律の特徴の違いや、曲想の変化を感じ取らせたい。

○「あの雲のように」 芙龍明子 作詞 作曲者不明

作曲者不明の愛歌曲で、ゆったりとした3拍子の拍の流れに乗って曲想を感じ取れる曲である。主旋律と副次的な旋律は3度の音程を中心に重なっており、歌やリコーダーを自由に組み合わせ、重なり合う響きを味わうことができる。3拍子の緩やかな順次進行の旋律と、大空に浮かぶ雲を見上げて夢を膨らませる心情を表す歌詞から曲想を感じ取りやすく、それらを生かして表現の工夫をしやすい。いろいろな表現の工夫を試す活動を十分にさせ、その工夫がもたらす曲想の面白さや変化を感じ取らせたい。また、リコーダーで演奏しやすい音域で構成されているため、曲想にあった演奏の工夫を考えさせ、旋律の重なる響きの面白さも感じ取らせたい。

○「ふじ山」 文部省唱歌 巖谷小波 作詞

元は国語の教材として「尋常小学読本」に載っていたものに旋律が付けられ、明治43年、「ふじの山」という曲名で「尋常小学読本唱歌」に掲載された。以来子供たちに歌い親しまれるようになった。富士山の雄大な姿を表す歌詞が旋律の動きにもよく表現されているため、歌詞の表す情景を想像しながら曲想を感じ取って、のびのびと歌うことができる。上行、下行する旋律の特徴を旋律線として視覚的に捉えることで曲の山をつかませたい。また、歌ったり歌詞を読んだりする活動を通して気持ちの盛り上がりや動きを探ることで曲の山を生かした歌い方の工夫を考えさせ、工夫して表現することのよさや面白さを実感させたい。

(3) 児童の実態 (男子15名 女子16名 計31名)

〈音楽への関心・意欲・態度〉

本学級は、音楽の授業に意欲的に取り組む児童が多い。歌唱については、響く声を出すことが楽しくなり、より遠くまで届くよう伸び伸びと歌おうとする姿勢が身に付いてきている。現学年から始まったリコーダーに親しみ、運指を覚えて積極的に取り組んでいる。導入時の常時活動では音遊びやリズム遊びに楽しく取り組み、明るく意欲的に学習する雰囲気を作り出している。

〈音楽表現の創意工夫〉

学級全体として、歌唱の際は歌詞の内容にふさわしい発声を工夫しようとしていたり、曲の雰囲気を捉えて気持ちの高まりを表現したりする様子が見られる。しかし、どうしてそのように表現したいと感じたのか問うと、自分の思いや意図を言葉で伝えられる児童は限られている。児童の演奏聴取において表現の工夫がみられたら、都度「なぜそのように感じたのか」を問いかけたり、聴き取った音や音楽を身体で表現する活動を取り入れたりして、思いや意図を意識化できるように働きかけられている。

〈音楽表現の技能〉

旋律の上がり下がりや動きについては、音の高低を手の高さで示しながら階名唱するなど、身体感覚を伴って理解することで経験を重ねてきた。音の高低については概ね理解できている。歌うときやリコーダーを演奏するときには正しい姿勢、口の形、響きや音色を意識して歌ったり演奏したりしているが、感じ取った曲想から思いや意図をもち、工夫して表現できる児童はまだ

少ない。

〈鑑賞の能力〉

楽曲を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを身体表現したり、短い言葉で表したりすることは比較的よくできている。その根拠となる音楽を特徴づけている要素や、旋律・リズムの特徴、強弱などに着目して聴くことに慣れさせるため、なぜそのような感じがするのかといった理由や、音楽を形づくる要素の変化に伴う曲の雰囲気の違いを問いかけることで、児童が知覚したことと感受したことを関連づけながら楽曲のよさや面白さが見出せるよう働きかけている。

3. 題材の目標

旋律やフレーズを手掛かりに、曲想の変化を感じ取って聴いたり、曲想にふさわしい表現を工夫して歌ったりする活動を通して、思いや意図を持って表現する能力を育てる。

4. 題材の評価規準

観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
評価規準	① 旋律の音の上がり下がりを手掛かりに、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取って聴いたり歌ったりする学習に進んで取り組んでいる。	① 旋律の音の上がり下がりを取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図を持っている。	① 旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい、自然で無理のない歌い方で歌っている。 ② 曲の山やフレーズを感じ取りながら、旋律の動きが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。	① 旋律の音の上がり下がりを手掛かりに旋律の特徴を取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

6. 指導方針 (◎は本時に関わる指導方針、※は授業中の生徒指導に関わる指導方針)

- ◎導入に当たって、本時の課題を明確にするため、既習事項や前時の活動から学んだことを問いかけ、想起させながら、めあてを引き出すようにする。
- 旋律の上がり下がりをつかえ、その特徴がつかめるよう、旋律線を図で示したものを掲示し可視化する。
- 音楽を形づくる要素について実感を伴った理解ができるよう、体を動かしながら歌ったり聴いたり比べたりして身体感覚に働きかけられるようにする。さらに、体の動きの変化を見逃さず、なぜそのような体の動きになったのかを問いかけ、感受したことが言語化できるように働きかける。
- ※グループで活動する時は、お互いの顔が見えるようにし、アイコンタクトをとったり、呼吸を合わせたりして協働して活動するよさを感じ取れるようにする。【共感的人間関係】
- ※グループの表現の工夫を練り上げる活動の際、一人一人が考えた工夫【自己決定】を持ち寄って伝えあい、音によって試すことでそのよさや面白さを共有する。【自己存在感】言葉で伝え合う活動と実際に音で試して確かめる活動とを往還させながら、活動できるように留意する。
- 自分の思いや意図を表現に生かしたり、よりよい表現を練り上げたりできるように、表現を繰り返して試す場面を設定する。
- ※グループで練り上げた表現の工夫を発表する際、演奏者はグループのイメージや工夫したところを伝えてから演奏し、聴き手は、その工夫通りの演奏になっていたか感想や気付いたことを述べ、双方のコミュニケーションを大切に活動する。【共感的人間関係】

7. 指導と評価の計画（6時間扱い）

過程	時間	<p style="text-align: center;">○ねらい めあて 題材の課題</p>	<p style="text-align: center;">☆振り返り（意識）</p>	<p style="text-align: center;">◇評価規準 （評価方法）</p>
つかむ	1 (本時)	<p>○「メヌエット」を聴き、旋律を歌ったり手で音の高さの上下を表したりしながら楽曲の特徴を感じ取り、旋律の特徴に興味・関心をもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">音の上がり下がりに気をつけてきき、曲のよさやおもしろさを見つけよう。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">旋律のとくちょうを手がかりに、曲のよさや面白さのひみつをさぐって、えんそうに生かそう。</p>	<p>☆始めの部分は音の動きが少ないから、なめらかに踊る感じがする。中の部分は音の動きが急だから、弾むように踊る感じがする。音の上がり下がりが違うと曲の感じも変わって面白いな。</p> <p>☆「あの雲のように」と「ふじ山」は、どんな旋律のとくちょうがあるのかな。旋律のとくちょうが、きいている人に伝わるようなえんそうがしたいな。</p>	◇ア①エ① (観察・発言)
追求する	2 3 4	<p>○「あの雲のように」を聴き、前時に学習した「メヌエット」と比較しながら旋律の特徴を捉え、歌唱する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「あの雲のように」のせんりつのひみつを見つけて歌おう。</p> <p>○前時までに学習した旋律の特徴を基に、どのように歌いたいかという思いや意図をもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">せんりつのとくちょうに合った歌い方を工夫してためそう。</p> <p>○グループで工夫した歌い方を聴き合い、表現の工夫と旋律の特徴との関わりについてまとめ、工夫した歌い方に合わせてリコーダーで副次的旋律を演奏する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">せんりつのとくちょうに合ったリコーダーのえんそうを工夫しよう。</p>	<p>☆「あの雲のように」は、音の動きが少ないから「メヌエット」の始めの部分と似て、なめらかな感じがする。</p> <p>☆歌ってみたら、音の高さが上がるころは気持ちが盛り上がる気がした。どうしてだろう。不思議だな。</p> <p>☆ゆったりとした感じを出したいから、優しい声で歌いたいな。</p> <p>☆終わりは音がだんだん下がっているから、少しずつ弱くして終わる感じを出してみたい。</p> <p>☆音が上がって気持ちが盛り上がるころは、だんだん大きくして歌うといいと思う。</p> <p>☆グループでお互いの工夫を聴き合ったら、自分たちの工夫と友達の工夫が似ていた。</p> <p>リコーダーの旋律も、歌のように工夫して、曲のよさをもっと伝えたい。</p> <p>☆リコーダーと歌を合わせて演奏すると、音が重なる響きを感じられて楽しい。</p>	◇ウ① (観察・発言・ワークシート) ◇イ① (観察・発言・ワークシート) ◇イ①ウ① (観察・発言・ワークシート)
まとめる	5 6	<p>○「ふじ山」の旋律の特徴を捉え、どのように歌いたいか思いや意図を持って歌う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「ふじ山」のせんりつのひみつに合った歌い方を工夫して歌おう。</p> <p>○グループで工夫した表現を発表し、お互いに聴き合うことでよさや面白さを交流し、表現の高まりを共有・共感する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">グループの工夫を発表し合って、そのよさやおもしろさを見つけよう。</p>	<p>☆3段目から4段目の旋律を線で表してみたら、山の形になった。山の頂上に向かって音が上がっているから盛り上げて歌いたいな。</p> <p>☆気持ちが盛り上がるころをだんだん強くしたいと思って歌ったら、日本一高い富士山の頂上に登った気がして楽しい。</p> <p>☆音の上がり下がりによって、旋律の感じが変わり、曲の感じにも関係があることが分かった。いろいろな曲の旋律の特徴を調べて、これからも歌い方や演奏の仕方を工夫したいな。</p>	◇イ①ウ② (観察・ワークシート・演奏聴取) ◇ウ② (演奏聴取)

8. 本時の学習（全6時間 本時は1時間目）

(1) 本時のねらい

- 「メヌエット」を聴き、旋律を歌ったり手で音の高さの上下を表したりしながら楽曲の特徴を感じ取り、旋律の特徴に興味・関心をもつ。

(2) つなぎ教材

- ①教材名 音を手の高さで表す身体運動
- ②目的 音の上がり下がりを手の高さで示す活動と感じ取った曲想をつなぐことで、旋律の特徴が生み出す曲想のよさや面白さを感じ取ることをねらう。
- ③つなぎ方 本時のめあてに迫るため、導入における活動で音の上がり下がりを手で示す活動を取り入れ、さらに児童の思考の中心場面においても身体運動を想起させ、旋律の動きを可視化することで自力解決のヒントとする。

(3) 展開

学習活動	時	指導上の留意点及び評価項目と方法等 (◎学びのつながり ※授業中の生徒指導)
<p>1. 階名唱遊びをし、音の上下に合わせて体を動かす。</p> <p>2. 「メヌエット」の ア の部分を聴き、演奏形態を確認する。</p> <p>3. 本時の学習課題を知る。</p>	<p>2</p> <p>5</p> <p>3</p>	<p>◎音の高さの変化を全身で表現することで、本時のねらいに迫るヒントとなるようにし、学習への意欲を高める。</p> <p>○楽器の音色が聴きとれるよう、使われている楽器は何かを問い、分かったら演奏する姿を模倣するように伝える。</p> <p>○旋律のもつ滑らかさを感じ取れるよう、旋律の音の動きに合わせて手を動かしながら聴く。</p> <p>○どんなイメージの踊りが思い浮かぶかを問いかけ、本時のねらいに迫れるようにする。</p> <p>○本時の課題を明確にし、活動の見通しもたせるため、導入の活動で児童が発言した言葉をすくい上げながらめあてを提示する。</p>
<p>音の上がり下がりに気をつけてきき、曲のよさやおもしろさを見つけよう。</p>		
<p>4. 「メヌエット」を全曲通して聴き、ア→イ→アの形式になっていることを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ア、イそれぞれ曲想が違うことを押さえ、それらの曲想をもたらす旋律の特徴を捉えながら聴く。 	<p>25</p>	<p>○旋律をよく聴き、感じ取ったことが表現できるよう、体を動かしながら鑑賞するように伝える。</p> <p>○旋律の特徴が視覚的に分かるよう、ア、イそれぞれの最初の部分を図形楽譜で示し、指でたどりながら音の上がり下がりやリズムについて確認する。</p> <p>○児童の体の動きを観察し、特徴を捉えて動いている児童には、どうしてそのような動きになったかを問い、感じ取った曲想と旋律の特徴とが関わり合っていることに気付かせる。</p> <p>※旋律の特徴を捉えた動きを手掛かりに、聴き取ったことや感受した曲の雰囲気ワークシートにまとめる。(自己決定)</p> <p>※グループで体の動きを紹介し合ったり、ワークシートにまとめたことを発表し合ったりし、聴き取ったことや感じ取ったことを共感・共有する。(自己存在感)</p> <p>○聴き取った旋律の特徴について気付いたことと、それらが生み出す曲想を結び付けながら板書してまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【鑑賞】 旋律の音の上がり下がりを手掛かりに旋律の特徴を聴き取り、その動きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。<観察・発言・ワークシート></p> </div>

<p>5. 題材の課題をつかむ。</p> <p>旋律のとくちょうを手がかりに、曲のよさや面白さのひみつをさがって、えんそうに生かそう。</p>		<p>○これからの学習に課題意識が持てるよう、大まかな学習の見通しを確認する。</p>
<p>6. 本時のまとめをし、学びを振り返る。</p>	<p>10</p>	<p>○本時の活動の感想や、次にやってみたいことを伝え合い、次時の活動への意欲づけをする。</p>